

中央アジア関連研究文献リスト 2007

本リストは、2007年(1～12月)に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆及び旧ソ連邦のムスリム地域に関する学術文献をリストアップしたものである(理科系のものを除く)。国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作に限定し、エッセイや事典項目等は除外した。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

書籍

アシルベク・ムミノフ、ナーディルベク・アブドゥルアハトフ、河原弥生編『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)』第3集(『イスラム文化研究』第88集)東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(非売品)

王柯『「天下」を目指して：中国多民族国家の歩み』農山漁村文化協会(3,048円)

川口琢司『ティムール帝国支配層の研究』北海道大学出版会(7,560円)

澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地：フェルガナ盆地とカシュガル地方』(『シルクロード学研究』28号)シルクロード学研究センター(1,100円)

「フェルガナ盆地における聖地調査」(澤田稔)

「カシュガル地方における聖地調査」(菅原純)

「クタイバ・イブン・ムスリム廟：口承伝説と所蔵文書の検討」(河原弥生)

「カシュガル地方における聖地伝承」(菅原純)

「ブルズグ・ハーン・トラとカット・ケナガス村の墓廟」(新免康・河原弥生)

などを所収

塩川伸明『多民族国家ソ連の興亡Ⅱ：国家の構築と解体』岩波書店(7,560円)

塩川伸明『多民族国家ソ連の興亡Ⅲ：ロシアの連邦制と民族問題』岩波書店(7,560円)

新免康編『中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究』(平成15年度～18年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究A(1)研究成果報告書)(非売品)

「研究序説：ウイグル人地域社会と民族意識」(新免康)

「ヤルカンド＝オアシスの拡大」(堀直)

「ドイツ連邦共和国所蔵の新疆史料について:マルティン・ハルトマン収集写本と関連資料」(菅原純)

「ウイグル人の女子学校教育の開始とその展開:1930年代のカシュガルを事例に」
(清水由里子)

「1980年代の新疆におけるウイグル民族文化の復興と民族教育の新たな確立」
(リズワン・アプリミティ)

「カシュガル・ホータンの現地調査報告」(藤山正二郎)

「カザフスタンのウイグル人:民族運動と国際環境」(岡奈津子)

「フェルガナ地域のウイグル人:移住の背景と地域性」(新免康)

「アメリカ「ラジオ・リパティ」「ボイス・オブ・アメリカ」「ラジオ・フリー・アジア」
のウイグル語ラジオ放送と、その職員たち」(水谷尚子)

「カシュガルにおけるウズベク人:予備調査報告」(河原弥生)

「フェルガナ盆地オシュのタフティ・スライマーンについて」(澤田稔)

「首都の祭典、農村の祝日:クルグズスタン(キルギス)・ノールズ復興に見る「国家」
と「民族」」(吉田世津子)

「ウズベキスタンにおける「遊牧的伝統」の現状:カラカルパクの語りの伝統と民族楽
器ウズベク・ドンブラについて」(坂井弘紀)

菅原睦『ウイグル文字本『聖者伝』の研究:I. 序論と転写テキスト』(Contribution to the Studies
of Eurasian Languages Series, No.11) 神戸市看護大学(非売品)

中村逸郎『虚栄の帝国ロシア:闇に消える「黒い」外国人たち』岩波書店(2,730円)

廣瀬徹也『テュルク族の世界:シベリアからイスタンブールまで』東洋書店(ユーラシア
ブックレット114)(630円)

水谷尚子『中国を追われたウイグル人:亡命者が語る政治弾圧』文藝春秋社(文春新書599)
(840円)

UYAMA, Tomohiko, (ed.), *Empire, Islam, and Politics in Central Eurasia*, 21st Century COE
Program, Slavic Eurasian Studies No.14, Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University.

“Nationalities Policy in the Brezhnev Era: The Case of Deported Nations” (HANYA, Shiro)

”Dar al-Islam under Russian Rule As Understood by Turkestan Muslim Intellectuals”
(KOMATSU, Hisao)

“A Particularist Empire: The Russian Politics of Christianization and Military Conscription
in Central Asia” (UYAMA, Tomohiko)

“Maktab or School? Introduction of Universal Primary Education among the Volga-Ural

Muslims” (NAGANAWA, Norihiro)

“Transnationalism As a Threat to State Security? Case Studies on Uighurs and Uzbeks in Kazakhstan,” in, pp. 351-368. (OKA, Natsuko)

などを所収

論文

ANATULLA, Guljennet 「中国新疆ウイグル自治区における経済開発と言語変容：バザールを中心に」『国際教育文化研究』（九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会）7, 97-108 頁

アブドロスリ・グリザル「新疆ウイグル自治区における観光産業の発展と環境問題」『国際文化学』（神戸大学国際文化学会）16, 1-14 頁

石其琳「中国新疆ウイグル族現代化における生活変化の実態調査研究」『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』（筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所）18, 125-140 頁

岩崎雅美「現代イスラム女性の隠す服飾：アフガニスタン・中国新疆ウイグル自治区・パキスタン・イランの調査から」『家政学研究』（奈良女子大学家政学会）54(1), 16-25 頁

稲原泰平「上海協力機構の国際法上の意義」『金沢星稜大学論集』40(3), 1-12 頁

大杉卓三「中央アジア・カザフスタンとウズベキスタンにおけるマイクロファイナンスの取り組み」『比較社会文化：九州大学大学院比較社会研究科紀要』13, 53-55 頁

岡奈津子「民族化するカザフスタンにおけるコリアン・ディアスポラ：エスニック・マイノリティとしての生き残り戦略」高全恵星監修・柏崎千佳子訳『ディアスポラとしてのコリアン：北米・東アジア・中央アジア』新幹社（4,725 円），491-527 頁【既発表英語論文の和訳】

小沼孝博「清朝とカザフ遊牧勢力との政治的関係に関する一考察：中央アジアにおける「エジェン＝アルバト」関係の敷衍と展開」『アジア・アフリカ言語文化研究』72, 39-63 頁

小沼孝博「バク制度の創設：清朝公文書による東トルキスタン史研究序説」『内陸アジア史研究』22, 39-59 頁

加藤巖「ウズベキスタンの物価・所得水準と人間開発指数から考える生活環境」『東西南北 2007』（和光大学総合文化研究所）235-250 頁

河東哲夫「権威主義・強権主義の一大ベルトにいかに関与すべきか：もうユーラシアで躓かないために」『中央公論』1473, 172-184 頁

香山弘文「我が国のカザフスタン向け原子力外交の本質と展望：ウラン権益確保の裏に隠さ

- れたカザフスタンとの原子力協力の真の戦略性とは何か?」『アトモス』(日本原子力学会) 49(8), 543-547 頁
- 北村浩二「中央アジアの農民水利組織の役割と課題」『水土地』(農村農業工学会) 75(7), 621-626 頁
- 木村汎「プーチンの中央アジア外交」『海外事情』(拓殖大学海外事情研究所) 55(1), 64-82 頁
- 栗田抄苗「カザフスタンのエネルギー政策と北東アジアの対応」『エネルギー経済』(財)日本エネルギー経済研究所) 33(2), 40-45 頁
- 小泉実「シルクロード(中央アジア) オアシス都市のあかり」『照明学会誌』91(10), 672-681 頁
- 河野明日香「ウズベキスタンの学校における地域共同体(マハッラ)の教育:政府のマハッラ政策との関連で」『比較教育学研究』35, 166-185 頁
- 小松久男「ロシア革命とイスラーム:中央アジアを中心に」『ユーラシア研究』(ユーラシア研究所) 37, 15-20 頁
- 坂井弘紀「中央ユーラシアの英雄叙事詩「チョラ・バトゥル」の地域的特徴再考:ノガイとカラカルパクのヴァリエーションについて」『東西南北2007』(和光大学総合文化研究所) 210-229 頁
- 坂井弘紀「死から逃れようとする賢者:テュルク世界の伝説的人物コルクトについて」永澤峻編著『死と来世の神話学』言叢社(4,600円), 279-300 頁
- 坂口泉「カザフスタンの石油分野におけるロシアのプレゼンス」『ロシアNIS調査月報』52(6), 14-27 頁
- 澤井充生「現代中国の異民族間通婚:寧夏回族自治区銀川市の事例」『人文学報』(東京都立大学人文学部社会学科・首都大学東京都市教養学部都市教養学科) 378(社会学42), 77-93 頁
- 澤井充生「清真寺のネットワーク型社会:中国におけるムスリム知識人の事例」『国際シンポジウム「移動する中国ムスリム:ヒトと知識と経済を結ぶネットワーク」』(平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)「中国ムスリムの宗教的・商業的ネットワークとイスラーム復興に関する学際的共同研究」関連著作物) 30-44 頁
- 清水由里子「カシュガルにおけるウイグル人の教育運動(1934-37年)」『内陸アジア史研究』22, 61-82 頁
- 杉浦一孝「中央アジア諸国における裁判の独立の実態とその基本的特徴」『体制転換と法』(「体制転換と法」研究会) 8
- 関啓子「クルグズスタンの教育改革と国民形成」『ロシア・ユーラシア経済:研究と資料』

- (ユーラシア研究所) 902, 25-35 頁
- タスタンベコワ・クアニシ「カザフスタンにおける言語教育政策の課題: ロシア語優位社会におけるカザフ語中心主義の行方」『比較教育学研究』35, 33-48 頁
- タスタンベコワ・クアニシ「カザフスタンの言語政策: 過去からの解放へ向かって」『ユーラシア研究』(ユーラシア研究所) 37, 66-70 頁
- ターライベクキズ・ジャルナクリ「日本語の『V-テイル』に対応するキルギス語の『V-jat』の aspektochnaya 意味用法をめぐって」『日本語文化研究会論集』3, 305-334 頁
- 田中哲二「中央アジア5カ国の最新事情: 経済パフォーマンスと権威主義的政権の継承・交代」『世界週報』88(3), 22-29 頁
- チョン・アジム「中国新疆ウイグル自治区の中央アジア諸国に対する対外貿易について」『熊本大学社会文化研究』(熊本大学大学院社会文化科学研究科) 5, 173-191 頁
- 豊川浩一「バルティースキー・ポルトの囚人サラヴァト・ユラーエフとその周辺: 帝政ロシアにおける地域史研究の試み」『駿台史學』(明治大学駿台史學會) 132, 23-58 頁
- 中馬瑞貴「ロシアの連邦中央とタタルスタン共和国との間の権限分割条約」『外国の立法』(国立国会図書館調査及び立法考査局) 232, 111-119 頁
- 中居孝文「トルクメニスタン新政権の誕生: 強権体制の踏襲か、雪どけの始まりか」『ロシアNIS調査月報』52(6), 28-36 頁
- 中島隆晴「トルクメニスタン: 注目される新政権の船出」『海外事情』(拓殖大学海外事情研究所) 55(5), 109-124 頁
- 中島隆晴「「格差」に見るイスラーム過激派問題: ウズベキスタンとトルクメニスタンを例に」『海外事情』55(11), 65-80 頁
- NAGANAWA, Norihiro, "Islam and empire observed: muslims in the Volga-Ural region after the 1905 revolution," in MAISUZATO Kimitaka (ed.), *Imperiology: from empirical knowledge to discussing the Russian Empire*, 21st century COE program, Slavic Eurasian studies No. 13, Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University, pp. 68-84.
- 西原明史「ウイグル族のもう一つのクルアーン: 宗教詩『ヘクマツト』の翻訳と解説」『安田女子大学紀要』35, 123-133 頁
- 野田仁「カザフ・ハン国とトルキスタン: 遊牧民の君主埋葬と墓廟崇拜からの考察」『イスラム世界』68, 1-24 頁
- 野田仁「一八世紀中央アジアにおける露清関係: ジューンガル政権崩壊からカザフ、アルタイ諸族の帰属問題へ」『史學雑誌』116(9), 1457-1493 頁
- 西脇隆夫「ウイグルの反戦詩人ル・ムタリブ」『季刊中国』89, 11-19 頁

- 濱本真美「一六四九年法典とリトアニア法典における異民族:タタール人に関する条項を中心に」『ロシア史研究』80, 25-35 頁
- 費燕「新疆におけるウイグル族の中国語教育、学習の現状について」『成城文芸』(成城大学文芸学部) 198, 53-71 頁
- 藤沼貴「ロシアの作家とチェチェン: A・S・プーシキンの故郷と異境」『創価大学外国語学科紀要』17, 5-23 頁
- 藤山正二郎「言語教育、実践共同体、身体知: ウイグルの漢語教育」『福岡県立大学人間社会学部紀要』15(2), 37-48 頁
- 野部公一「縮小から回復に転ずるカザフスタン農業: 経済体制転換後のあゆみ」『ユーラシア研究』(ユーラシア研究所) 37, 28-33 頁
- 松井啓「冷戦終焉とルーブル圏の崩壊: カザフスタン共和国の例」『杏林社会科学研究』(杏林大学社会科学学会) 22(4), 44-70 頁
- メメティ・タシ「イスラーム社会における教育の世俗化: トルコとウイグルの比較」『国際人間学フォーラム』(中部大学大学院国際人間学研究科) 3, 209-222 頁
- ムサエフ・ターライベク「英雄叙事詩『マナス』に見られるキルギス語の使役接尾辞: Dir と Giz」『ククロス: 国際コミュニケーション論集』(名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻) 4, 17-31 頁
- 村山和之「イスラーム礼拝施設実見録: ウズベキスタン・オアシス都市での祈り方『バハウッディン』と『ヒズル・モスク』にて」『東西南北 2007』(和光大学総合文化研究所) 199-209 頁
- 湯浅剛「中央アジアにおける中国ファクター」木村汎・袴田茂樹(編)『アジアに接近するロシア: その実態と意味』北海道大学出版会(3,360円), 118-135 頁
- 湯浅剛「2006年の中央アジア諸国: 安定と動乱-さらなる政治変動への予兆」富重真一・村山真弓編『アジア動向年報 2007』(6,615円) アジア経済研究所, 609-632 頁
- YUASA, Takeshi, "Japan's Multilateral Approach toward Central Asia", Iwashita Akihiro (ed.) *Eager Eyes Fixed on Eurasia. Vol. 1, Russia and Its Neighbors in Crisis, 21st Century COE Program, Slavic Eurasian Studies No.16-1*, Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University, pp.65-84.
- YUASA, Takeshi, "Russia's Policy toward Central Asia: Tendencies of Limited Engagement", Adam Eberhardt and Akihiro Iwashita (eds.) *Security Challenges in the Post-Soviet Space: European and Asian Perspectives*, Warsaw-Sapporo: Polish Institute of International Affairs, Slavic Research Center, Hokkaido University, pp.118-135.

和崎聖日「ポスト・ソヴィエト時代のウズベキスタンの『乞食』:都市下位文化におけるイスラームと共同性」『文化人類学』(日本文化人類学会) 71(4), 458-482 頁